

命を守る 災害対策を!



2月9日小竹向原駅

板橋区議会 第1回定例会 (2月14日・区議会本会議) 一般質問

「子どもを殺すな！」 ガザの即時停戦を!

石川すみえ区議は、イスラエルのパレスチナに対する大量虐殺への抗議の声をあげること求めました。区長は「子どもを含む多くの民間人が犠牲となっている事態は痛恨の極みであり、断じて容認できない。平和への希求の念を一層強くしている。」と言いながら、「政府は人道危機の改善に向けて積極的な外交を続けており、区としては情勢の変化を注視し具体的な働きかけはしない」と答弁しました。区長の姿勢は矛盾しています。

都議会では全会派一致でガザの即時停戦を求める意見書が採択されています。昨年の第4回定例会では日本共産党区議団が意見書の提案をしましたが、全会派一致となりませんでした。石川区議は「犠牲になる子どもたちを1人でも減らしたい。多くのみなさんと力を合わせ、ひきつづき頑張ります。」と語っています。

災害備蓄を 公的責任で



石川すみえ区議

石川すみえ区議は備蓄物資について質問。「最低3人分の食料、ひとり1日3リットルの水、衛生用品などを各家庭で備えるには費用も場所もかかる。せめて低所得、高齢、子育て世帯等には経済的支援を」と求めました。区長は「避難所では、誰に対しても拒むことなく物資供給をするため、平常時の個々への備蓄支援の必要性は高くない」と答

弁しました。しかし10年前と比べ都が算出した想定避難者数は増加する一方、区の備蓄総量は減る方向です。指定避難所は小中学校の73校分、各避難所では約670人分の避難が想定されていますが、紙おむつや生理用品、マスクといった衛生用品はまったく足らず、アルファ化米で3日間を飢えがしのげる程度の備えです。

また、福祉避難所については、現在区と協定を結んでいる福祉避難所の耐震化等の状況も把握はしていないことが判明。能登半島地震では、高齢、病氣、障がいのある人たちが利用する福祉避難所は想定2割しか開設できなかったと報道もありますが、板橋区も他人事ではない現状があらかになりました。

区議団は引き続き、公助の役割を果たす災害対策を求めていきます。

